



# 新着図書案内



2016年2・3月発行

## 『子どもに歯ごたえのある本を 石井桃子談話集』

子どもが本を好きになるには。翻訳、創作など、「子どもの本」の開拓者・石井桃子が伝える、心をゆたかにする本とのつきあいかた。大江健三郎との対談、講演録などを集成した初の談話集。

石井桃子 // 著 河出書房新社

## 『江戸のバロック 日本美術 のあたらしい見かた』

16世紀末からヨーロッパを席卷したバロック様式。同時期に日本にも、こつてりと過剰な美を追求した芸術家たちがいた。その代表的作品をオールカラーで紹介する、かつてない江戸美術入門。

谷川渥 // 監修 河出書房新社

## 『蚕 絹糸を吐く虫と日本人』

世界一の生糸輸出国だった近代の日本。お金を運んでくれる虫と、私たちはどのように暮らしたのか。養蚕が生み出した文化と芸術を、気鋭の民俗学者が掘り起こすノンフィクション。

畑中章宏 // 著 晶文社

## 『図説日本語の歴史』

日本語はどのような姿かたちをして残されてきたか。古事記、古今和歌集、平家物語、江戸期の辞書、漱石の手書き原稿…。貴重な文献の数々から「書きことば・はなしことば」の変遷を読む。

今野真二 // 著 河出書房新社

## 『世界の発明発見歴史百科』

ナイフの発明からセントラル・ヒーティング、ウィキペディアまで、生活を一変させ常識を覆した、最も重要な300の発明と発見を時代順項目で解説。豊富なイラストと様々なコラムも楽しいユニークな読み事典。

テリー・プレヴァートン // 著 原書房

## 『手紙その消えゆく 世界をたどる旅』

かつて、世界は手紙で回っていた。紀元前に存在した賢人による手紙の手引き、800年も残る情熱的な愛の往復書簡…。歴史の節目で活躍してきた、その小さくも偉大な紙片の物語。

サイモン ガーフィールド // 著 杉田七重 // 訳 柏書房

## 『最高に楽しい 文房具の歴史雑学』

モレスキンの“伝説”の裏には巧みなマーケティングがあり、NASAが宇宙船に持ち込んだ鉛筆にはちょっとした問題があった。ありふれた文房具の背後にある歴史と物語を、飽くなき偏愛をもって綴る。

ジェームズ・ウォード // 著 エクスナレッジ

## 『990円のジーンズが つくられるのはなぜ？』

バングラデシュは世界中のアパレル企業から注文が殺到する、激安商品の供給国。1カ月4000円ほどで働く女性たちの生活から、グローバル化した世界の現実が見えてくる。洋服から考える世界の喜ばない現実。

長田華子 // 著 合同出版

\*掲載しているものは新着本の一部です。

\*紹介文は日販マークより引用。



## 『カラー百科写真と古図で見る 狂言七十番』

狂言をより深く知りたいと願う人のために編んだ解説書。厳選狂言70番、フルカラーで一曲一曲丁寧に解説。鮮やかな古図と現代の演出を見比べ、時代の変遷を辿る。和泉流を中心として解説した。



田口和夫 // 編 勉誠出版

## 『ハリウッド黄金期の女優たち』

直木賞作家の逢坂剛、イラストレーター・エッセイストの南伸坊と、劇作家・脚本家・映画監督の三谷幸喜によるハリウッド美人談義。前作「ハリウッド美人帖」から漏れてしまった、さらに無名の美女たちを取り上げた。

逢坂剛 // 著 南伸坊 // 著 三谷幸喜 // 著 七つ森書館

## 『面白くて眠れなくなる遺伝子』

iPS細胞、DNA、再生医療、クローン動物…。最新の研究成果まで含めた遺伝にまつわる様々な話を、わかりやすく、また読み物として楽しめるように紹介。今さら人に聞けないような初歩的なトピックにも言及。

竹内薫 // 著 丸山篤史 // 著 PHP研究所

## 『光と色のサイエンス』

「色の章」と「光の章」の2章立てで、光と色の科学を紹介。光と色はたがいに密接に関係しており、どちらの章から読みはじめても、全体を通して、光と色の不思議さ、面白さを身近な具体例から実感できる。

ニュートンプレス

## 『面白くて眠れなくなる人類進化』

ネアンデルタール人の真実の姿、ミトコンドリア・イブの行方、日本人のルーツの謎…。ヒトの体と心がどんな生物に起源をもち進化したかを様々なエピソードで紹介。太古の生物からヒトへ続くドラマチックな進化の話。

左巻健男 // 著 PHP研究所

## 『日本人と漢字』

中国からきた漢字を、情緒と繊細さをもって独自のものに変えてきた日本人。中国では漢字の音が重視されたが、日本では形や意味にもこだわった。歴史と共に変化する漢字の面白さを学べる1冊。

笹原宏之 // 著 集英社

## 『ニュートリノで探る 宇宙と素粒子』

宇宙の成り立ちを探るうえできわめて重要な、素粒子・ニュートリノ研究の第一人者による入門書。2015年ノーベル物理学賞を受賞した著者が、基礎理論から最新の発見まで詳しく紹介。



梶田隆章 // 著 平凡社

## 『東京100年散歩 明治と今の定点写真』

新橋、日本橋、皇居、赤坂、浅草…。東京の100年前と今を見比べる写真集。明治の写真と同じ場所での定点撮影を試み、撮影場所とカメラの向きを地図に記載。文豪たちが記した明治の東京のエッセイも掲載した1冊。

鷹野晃 // 著 海竜社

## 『十二支になった動物たちの考古学』

人は動物たちとどのように関わり、また何を託してきたのか。新進気鋭の研究者たちが、最新の動物考古学の成果をもとに、深く、意外で、ユニークな人と十二支の動物たちとのつながりを語る。

設楽博己 // 編著 新泉社

## 『本と読書の斜解学 本に関するコラムあれこれ』

無類の本好き・読書好きの著者による、本や古本、読書にまつわるコラム集。世間でいうところの名作、ベストセラーや、新聞、雑誌の書評欄に掲載されたような本はないが、雑本乱読の醍醐味が味わえる1冊。

植沢淳一郎 // 著 北辰堂出版

\*掲載しているものは新着本の一部です。  
\*紹介文は日販マークより引用。

